とき　令和六年四月十四日（日）十一時開演

ところ　日本橋　三越劇場　電話〇三―三二七四―八六七三

小唄松峰派

樹立五十五周年記念

松峰会

主催　二代目家元　松峰照

後援　若松会

松峰会

ごあいさつ

やわらかな春風を感じ心華やぐ頃となりました。

皆々様には御機嫌うるわしくお過ごしの事とお慶び申し上げます。

母、初代家元が創派いたしました松峰派も五十五周年を迎えることとなりました。

これもひとえに、一門の方々の変らぬご努力と力強いご支援の賜物と心より感謝いたしております。

本日の番組は、母作曲の二百数十曲のうち、九十曲余りを一門の皆様と特別ご出演の御師匠様方に演奏していただきます。特別ご出演の御師匠様方は、今の小唄会を代表する、すばらしい御師匠様方で、ご出演を快諾して下さいました事を心より感謝申し上げます。

このような華やかな会がこの後も開催出来ますよう、一門の皆様と共に一層芸道に励んで参りますので、これからも変らぬご指導ご支援の程、お願い申し上げます。

令和六年四月吉日

二代目家元

松峰　照

11時開演

御祝儀 松の寿

白井良治作詞
初代 松峰 照作曲

唄

中野
老田
代志彰
佳英
佳近
照千歩
昇涼
小梅
優美里
美海
美龍

唄

照外茂
照芳朗
美吉郎
照信
照正
照(系)
照遊
優明
若苑
照乃
照花
照奈

糸

替 小ふみ
替 照香
小玉
小都
佳代
弥生乃
照世
照美
照多
照あや
照音
照男

一部《初代松峰照作品集》

―四季を唄う―

1 井筒由喜作詞
木曽の旅路（秋）
唄 弥生乃
糸 照香

2 伊藤寿観作詞
雷さん（夏）
金沢 佳代
糸 照

3 露木紅作詞
帰り道（秋）
照香
糸 照美
替 弥生乃

4 小野金次郎作詞
秋
蔦
(秋)

唄 大阪
照
乃

糸
照

5 常磐まさ米作詞
たけくらべ
(秋)

名古屋
照
美

糸 弥
替 照
生
香 乃

6 常磐まさ米作詞
雨も楽しや
(春)

小
玉

糸 照
替 照
香

7 伊藤寿観作詞
あなたと二人
(夏)

札幌
照
千
歩

糸 照
替 弥
生
乃

12時頃

8 茂木幸子作詞
雪の南部坂（冬）
富山 照世
糸 照香 替 照

9 白井良治作詞
京の白河（春）
大阪 中村誠康
糸 照乃 替 照

10 露木紅作詞
花の宿（春）
二宮伸江
糸 照

11 白井良治作詞
春おぼろ（春）
金沢 老田倫子
糸 佳代 替 弥生乃

常磐まさ米作詞
恋蛇の目（夏）

12 露木紅作詞 恋の渕（秋）
伊藤寿観作詞 恋の紐（春）

唄 名古屋 加藤和代

糸 照 替 照

香美

13 近藤紫江作詞 雪の十日町（冬）
常磐まさ米作詞 初島田（春）

金沢 中野敬子

糸 佳 替 弥

生

乃代

14 新井浄子作詞 今朝の雪（冬）
伊藤寿観作詞 奴凧（春）

名古屋 奥山景布子

糸 照 替 照

香美

1時頃

15 長崎誠作詞 近江のお兼 (夏) 井筒万紗弥 糸 照 替 照 香

16 古口晴彦作詞 木曽路 (秋) 照外茂 糸 照 替 小ふみ

古口晴彦作詞 おっとそいつは (春)

17 伊藤寿観作詞 隅田の月 (春) 名古屋 土田博一 糸 照 替 照 美香

茂木幸子作詞 雪が舞う (冬)

18 常磐まさ米作詞 言わなきゃよかった (秋) 照あや 糸 照

松峰照若作詞 すだれ越し (夏)

19

伊藤寿観作詞

出船（秋）

井筒由喜作詞

まんざらでもない（春）

唄 照

音 照

糸 照

20

近藤紫江作詞

黒衣（春）

益子拓己

益子碧生

益子歩弓

糸 弥生乃

21

常磐まさ米作詞

雨の忍び逢い（春）

茂木幸子作詞

思い出の曲（秋）

照

花

糸 照

替 照香

22

手 茂木幸子作詞

辰巳 岡本吉造作詞

育ち紙

(夏)(秋)

美 名古屋

海

糸 照

替 照

23

朝顔 露木紅作詞

(夏)

熱燗一杯

(冬)

照

奈

糸

照

24

山 露木紅作詞

相 小田将人作詞

栗

(秋)

宿

(夏)

小

ふ

み

糸 照

替 照

香

2時頃

25 伊藤寿観作詞 酔いざめに（秋）
伊藤寿観作詞 対ゆかた（夏）

唄 金沢 代志彰
糸 佳代

26 露木紅作詞 筒井筒（秋）
古口晴彦作詞 喜撰法師（春）

名古屋 美龍
糸 照美
替 照香

27 松峰照昇作詞 花が散る（春）
近藤紫江作詞 今年もやっぱり（冬）

昇涼
糸 照ふみ
替 小

28

茂木幸子作詞
牡丹雪（冬）

近藤紫江作詞
木犀（秋）

名古屋
美吉郎

照美

29

露木紅作詞
軒つばめ（夏）

伊藤寿観作詞
濡れつばめ（春）

照芳朗

照

30

常磐まさ米作詞
雨の宿（秋）

伊藤寿観作詞
一人暮らし（冬）

照正

照香美

照

照玉

照香

照弥生乃

上

―お好み選―

31
茂木幸子作詞
岡惚れよ
玉川女竹作詞
垣越しに

唄 小梅

糸 照照
替 照香

32
磯部東籬作詞
結ぶ縁し
磯部東籬作詞
何でもないのに

大阪 優美里

糸 小照
替 玉

33
磯部東籬作詞
あちらたてれば
伊藤寿観作詞
西風であろうと

若苑

糸 弥生
替 照乃香

3時頃

34 三日月眉 井筒由喜作詞 大阪 照多 系照

袖が濡れます 伊藤寿観作詞

35 翁面 小田将人作詞 若彩 系照

様は山谷 小林栄作詞 替照香

36 番町皿屋敷 大塚謙一作詞 金沢 佳英 系佳

稲瀬川 古口晴彦作詞 替弥生乃代

37 常磐まさ米作詞 沖のかもめ 帯吉作詞 忘れているのに

唄 大阪 小雪

糸 照 替 小ふみ

38 磯部東籬作詞 雨 桜井幸作詞 手ぬぐい

小都

糸 弥生 替 照香乃

39 池田弘孝作詞 昔のことさ 池田弘孝作詞 たかのぞみ

照てん

糸 照

40 帯吉作詞 立山紬 近藤紫江作詞 世渡り 照男 糸照香

41 古口晴彦作詞 王子の狐 伊藤寿観作詞 破れ傘 大阪照信 糸替照多

42 井筒由喜作詞 酒が言わせる 小田将人作詞 彦左 金沢佳近 糸佳代

43 伊東深水作詞 保名 唄 大阪優明 糸照 替小玉

武井長次郎作詞 屋台酒

—日本列島 北から南へ—

44 小田将人作詞 雪明かり 小泉 糸照

（北海道）

4時頃

45 茂木幸子作詞 加賀の女 佳代 糸照 替弥生乃

（石川）

46 茂木幸子作詞
八尾の女（富山）
弥生乃
糸 照香
替 照美

47 茂木幸子作詞
城端の曳山祭（富山）
照世
糸 照

48 井筒由喜作詞
浅草育ち（東京）
井筒万紗弥
糸 照
替 弥生乃

49 井筒由喜作詞
神楽坂（東京）
小玉
糸 照
替 弥生乃

50 安田寛明作詞
桶狭間（愛知）
唄 照 美 糸 照

51 井筒由喜作詞
二年坂（京都）
中村誠康 糸 替 照 照 乃

52 大塚謙一作詞
北新地（大阪）
照 遊 糸 替 小 照 照 玉

53 大塚謙一作詞
天神祭（大阪）
照 乃 糸 照

54 小田将人作詞
呼子の女（佐賀）
照千歩
糸 照

55 白井良治作詞
島原雨情（長崎）
照香
糸 弥生乃
替 照美

5時頃

御挨拶

公益社団法人小唄連盟会長 春竹利昭様

松峰会会長 松峰照遊

会主 二代目家元 松峰照

二部　《古典小唄と松峰小唄の唄くらべ》

56 大塚謙一作詞・初代松峰照作曲
梅川忠兵衛

唄 松峰照

糸 松峰照香
替 松峰弥生乃

57 竹柴蟹助作詞・歌沢寅作曲
落人

唄 長生松代

糸 長生千代由

歌舞伎「恋飛脚大和往来」や
人形浄瑠璃「冥余の飛脚」から
梅川と忠兵衛が新口村へ向かう道行の場面

58 大塚謙一作詞・初代松峰照作曲

梅月夜

唄 蓼胡茂

糸 松峰照

替 松峰弥生乃

59 河上渓介作詞・春日ぜよ作曲

湯島境内

唄 春日ぜよ高壽

糸 春日ぜよ艶静香

泉鏡花の作品で新派の代表作

「婦糸図」から梅の花が咲き誇る湯島天神の境内で

早瀬主税が芸者お蔦に別れ話をもち出す場面

60 和尚吉三

大塚謙一作詞・初代松峰照作曲

唄 扇よし和

糸 松峰照

61 吉三節分

岡野知十 田島断 作詞・吉田草紙庵作曲

唄 田村てる

糸 田村弓路

歌舞伎「三人吉三巴白浪」から和尚吉三、お嬢吉三、お坊吉三の三人が出会い、義兄弟となる大川端の場面名台詞「ほんに今夜は節分か、こいつあ春から縁起がいいわえ」は有名

62 夜啼鳥

大塚謙一作詞・初代松峰照作曲

唄 ふじ松加奈子

糸 松峰照
上 松峰弥生乃

63 鶴次郎

河上渓介作詞・春日ぜよ作曲

唄 春日ぜよ津満

糸 春日ぜよ津ゆ
上 春日ぜよ重葉

川口松太郎の小説で、新派「鶴八鶴次郎」から
場末の酒場で鶴次郎が鶴八との別れを悔やんでいる場面

三部《小唄振り》

唐澤国雄作詞
未練酒
唄 照正

茂木幸子作詞
好きなのよ
糸照
替照あや

立方 八王子 葉月
〃 成華

伊藤寿観作詞
だるまさん　唄　照遊

伊藤寿観作詞
夕がらす　糸　小照　替　玉

立方　新ばし　喜美勇
〃　喜美弥

6時頃終演予定